

第3回 鉄道脱炭素官民連携プラットフォームの発表まとめ

各社の取組(まとめ)

1. エネルギーを「減らす」(H)
→ 省エネ機器の開発、促進(第一実業株式会社)
2. 再エネ等を「作る」(T)
→ 次世代燃料の開発(第一実業株式会社) 鉄道分野に特化した太陽光発電(株式会社フルーク)
3. 再エネ等を「運ぶ」(H)
→ 国内への水素輸送ルート確保(川崎重工業株式会社)
既存の送電線ネットワークを活用した電力輸送(オムロンフィールドエンジニアリング)
4. 再エネ等を「貯める」(T)
→ 水素貯蔵施設の大型化(川崎重工業株式会社)
5. 再エネ等を「使う」(T)
→ 選択肢の一つとして他の省エネ技術と水素エンジンの可能性を追求(川崎重工業株式会社)

共通点と課題

- ◆ 太陽光発電などの再生可能エネルギーについては、国内での活用が一般的には進んでいるが、水素など製造が必要なエネルギーはコスト面などから輸入に頼らざるを得ない
- ◆ 水素やバイオマス燃料などのエネルギーは、経済性を含めた商用化に時間がかかる

WGに係るアンケートの主なご意見

1. 再生可能エネルギーの導入について

(ご意見例)

- ・鉄道用地や施設等の活用における再生可能エネルギーの実証について

2. 再生可能エネルギーの活用について

(ご意見例)

- ・街・駅が一体となったエネルギーマネジメントについて

3. 鉄道の利用促進のためのPRについて

(ご意見例)

- ・環境に優れた鉄道の利用を促進するためのPR方法等の取組について